

年度:2019年 LOM番号:214

【褒賞申請書】

事業名称	4月例会 飛び出せ！！城下町ドローン
カテゴリー	人間力開発部門

申請LOM	公益社団法人米沢青年会議所
LOMの人数	94人
理事長名	鹿俣 貴裕
担当者名	五十嵐 俊晴
担当者携帯番号	090-4553-1338 担当者E-Mail cpa-tos@tmail.plala.or.jp
事務局住所	米沢市アルカディア1丁目808-18
事務局TEL	0238-29-0336 事務局FAX 0238-28-7910

本事業の参加者	会員数	45名
	関係者数	7名
	一般参加者数	40名
事業実施に至る背景 400文字程度	近年では、SNSの普及により、面と向かって話すことや触れ合う機会が徐々に減少しています。また、AIの発達により、人々が行ってきた多くの仕事は機械に取って替わられつつあります。これから社会へ出る子どもたちは、幼い頃から人とのつながりを大切にする事は勿論、技術革新による環境変化を好機と捉え最先端技術への興味や関心を深める必要があります。	
事業目的 400文字程度	対外目的: (1)子どもたちが、最先端技術への興味や関心を深める。 (2)子どもたちが、初体験の課題にも臆せず挑めるチャレンジ精神と、主体的な行動力や柔軟な創造力を養う。 (3)子どもたちが、このまちの人々の温かさや仲間と協力することの大切さを体感し、豊かな人間らしい心を育む。 対内目的: (1)子どもたちとともに最先端技術を学び、課題にチャレンジし、自らの成	

	<p>長につなげる。</p> <p>(2)子どもたちの健やかな成長を育むことの難しさと重要性を体感し、青少年育成活動の更なる発展につなげる。</p>
SDG'sの該当項目	<p>(SDG'sの該当項目を記載)</p> <p>SDGsのゴールとターゲット番号 <u>4</u> ・ <u>4-1</u></p>
事業概要 400文字程度	<p>開会式では、トイドローンが目の前で飛ぶ所を見てもらい、また米沢市をドローンで空撮した映像を見てもらうところから事業を開始しました。</p> <p>ドローン講義では、山形大学教授に、ご自身の日頃のドローン活用実例を交えながら、ドローンの歴史や最新技術、活用術について講義いただきました。</p> <p>ドローンプログラミング教室では、Scratch というソフトを用いて、パソコンを使用してプログラミングを組み、パソコン画面内のドローンを操作しました。</p> <p>ドローン製作体験・飛行体験では、トイドローンの成功例と失敗例を見てもらい、製作の難しさを目の当たりにしてもらい、オリジナルのドローン製作に挑戦してもらい、チーム対抗でドローンを飛ばす対決を行いました。</p> <p>ドローン体験発表では、参加者に1日を通じて学んだことや、今後のドローンの活用術について発表してもらいました。</p> <p>ドローン記念撮影では、実際のドローンを使い空撮による記念撮影を行いました。</p>
開催期間・ タイムスケジュール	<p>2019年4月14日(日)09:45～17:00</p> <p>08:30～ メンバー集合、会場設営</p> <p>09:00～ 開会セレモニー</p> <p>09:15～ 参加者受付開始</p> <p>09:45～ 開会式</p> <p>10:00～ ドローン講義</p> <p>10:30～ ドローンプログラミング教室</p> <p>12:15～ 昼食・休憩</p> <p>13:00～ ドローン製作体験</p> <p>13:45～ ドローン飛行体験</p> <p>14:30～ 休憩</p> <p>14:45～ ドローン体験発表会</p> <p>16:00～ ドローン記念撮影</p> <p>16:20～ 閉会式</p> <p>17:00～ 参加者解散</p> <p>17:15～ 閉会セレモニー</p> <p>17:30～ メンバー解散</p>

開催場所	NCV 米沢センター、芦付公園	
事業区分	新規	
公益・共益区分	公益事業	
事業総予算・収支	予算計: ¥350,000 支出計: ¥348,428	
協力団体	共催	-
	協賛	-
	後援	米沢市、米沢市教育委員会、川西町、川西町教育委員会
	その他	株式会社ニューメディア 山形大学地域教育文化学部 教授 八木浩司様 山形大学工学部サークル ロボタスティクス ビデオエージェント 代表 鈴木芳之様
事業対象者	小学校5、6年生	
行動 (ACTION TAKEN) 400文字程度	<p>(事業の調査、立案、会議の流れ、実施活動、事業後の活動について記入)</p> <p>ドローン講義については、山形大学教授との間で、大学研究室まで足を運び、電話やメールでの打ち合わせを繰り返し、参加者に伝えたい内容や伝え方についてすり合わせを行いました。</p> <p>プログラミング教室については、講師との間で、プログラミングの難易度の設定について、プログラミング操作を実際に行いながら、協議・決定を行いました。</p> <p>ドローン製作については、山形大学工学部サークルに協力を要請し、オリジナルドローンの企画、研究、量産、装飾等について、細かな協議を重ねながら、オリジナルのドローンを製作してもらいました。</p>	
結果 (RESULT)	<p>(目的がどのくらい達成できたか、上記の結果の想定外の結果、結果の確認方法、検証結果を箇条書きで記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加児童には、班ごとにドローンの将来の活用事例について話し合い、発表してもらいました。 ・どのように役立つかという観点から、自分たちの目線で新たな活用方法も発表してもらうことができ、ドローンに十分に親しんでいることが分かりました。 ・参加児童全員に、1日を通じて学んだことを一言ずつ発表してもらいました。 ・難しい課題だったけれど最後まで完成でき自信になった、色々教えてもら 	

	<p>いありがとうございました、というような発表が聞かれ、各々、挑戦する行動力や周囲への感謝の心を養うことができました。</p>
<p>地域社会への影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業が与えた地域社会への影響を記入)</p> <p>本事業を通じて、子どもたちに、新たな課題を与えたり、教えを施すことで、どんどん成長する様子を目の当たりにすることができ、子どもたちの成長の速度と、教育の大切さを感じました。我々の青少年育成活動が果たす役割の大切さをあらためて感じたとともに、本事業の実施が、笑顔溢れるまちの未来の創出につながったものと確信しています。</p>
<p>LOMへの影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業がLOMに与えた影響を記入)</p> <p>参加メンバーは、「本事業を通じて、子どもたちと一緒に学び、チャレンジし、新しい発見を得ることができましたか？」の問いに対し、「できた」の回答が93.1%を占めており、最先端技術に関する学びを得ることができました。</p> <p>「本事業を通じて、積極的に子どもたちと対話し、触れ合い、青少年育成活動の重要性を感じることはできましたか？」の問いに対しては、「できた」の回答が75.9%であり、参加メンバーが万遍なく参加児童と触れ合える機会を設けることが必要でした。</p> <p>ただし、参加メンバーの意見の中には、子どもたちが真剣に取り組む表情が印象的で、その学ぶ姿に、事業や教育の大切さを感じた、というものもあり、青少年育成活動の重要性を体感できる場となりました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業の期待される長期的な影響を記入)</p> <p>本事業を通じて、子どもたちは、困難な出来事に遭遇したとしても、周囲と力を合わせ、挑戦することで、それを乗り越えられることを体感してもらうことができました。そのような体験をできた子どもたちは、これからの激動の社会を力強く生き抜き、地域の発展のために活躍してくれるものと確信します。</p>
<p>考察や推奨</p> <p>400文字程度</p>	<p>(検証を踏まえた次の行動を記入)</p> <p>本例会を通して、困難な課題を与えることで、子どもたちはそれを乗り越え大きく成長してくれることを体感できました。また、我々は、我々が果たすべき青少年育成活動の重要性をあらためて感じることはできました。今後も、新しい物事へチャレンジする事業に取り組むことが、これからの時代を生き抜く子どもたちには必要であり、そういった事業を積極的に開催していくべきと考えます。</p>
<p>改善点</p>	<p>(改善点があれば記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーへの作業依頼は、何故その作業を行うのかという趣旨も併せて伝える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の製作・操作を行う場合、事前に自ら体験し、トラブルを洗い出す。 ・例会当日は、細かな作業は極力避け、委員長がその役割を担うのは特に避ける。 ・参加者募集は欠員も想定し、定員丁度で募集を締め切るかどうかを検討する。
<p>JCI活動計画の推進 JCI VISION活動計画の推進 JCI MISSION活動計画の推進</p>	<p>(事業を通じて、行ったJCIIに関する推進活動を記入)</p> <p>本事業を通じて、地域の子どもたちに体験と気づきを与え、将来に渡って自分たち自身の力で社会を生き抜く術を学ぶ場を提供することができました。</p>
<p>添付資料</p> <p>PDF資料2MB、5ページ以内</p>	<p>(事業風景の写真、新聞記事、参加者や協力者から寄せられた感想文 など)</p>  



飛び出せ！！青少年たちよ！

飛び出せ！！城下町ドローン

公益社団法人米沢青年会議所は2019年4月14日日曜日に「飛び出せ！！城下町ドローン」を NCV 米沢センターと芦付公園にて行いました。詳細の内容につきましては、下記内容をご覧ください。

この「飛び出せ！！城下町ドローン」は、子どもたちに、困難な課題にも果敢に取り組むチャレンジ精神と行動力や創造力を養ってもらうとともに、このまちだからこそ育むことができる豊かな心を醸成してもらうことを目的として開催されました。参加児童が困難な課題をクリアし、仲間との協力関係や感謝の気持ちを持つことができたという結果、目的を達成する事ができました。

飛び出せ！！城下町ドローンとは？

詳細な事業内容

期日：2019年4月14日

会場：NCV 米沢センターと芦付公園

(事業内内容)

開会式では、トイドローンが目の前で飛ぶ所を見てもらい、また米沢市をドローンで空撮した映像を見てもらうところから事業を開始しました。ドローン講義では、山形大学教授に、ご自身の日頃のドローン活用実例を交えながら、ドローンの歴史や最新技術、活用術について講義いただきました。ドローンプログラミング教室では、Scratch というソフトを用いて、パソコンを使用してプログラミングを組み、パソコン画面内のドローンを操作しました。ドローン製作体験・飛行体験では、トイドローンの成功例と失敗例を見てもらい、製作の難しさを目の当たりにしてもらい、オリジナルのドローン製作に挑戦してもらい、チーム対抗でドローンを飛ばす対決を行いました。ドローン体験発表では、参加者に1日を通じて学んだことや、今後のドローンの活用術について発表してもらいました。ドローン記念撮影では、実際のドローンを使い空撮による記念撮影を行いました。

